会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和４年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回運営委員会 |
| 開催日時 | 令和4年7月19日（火）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | リファレンス西新宿 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾委員対面：成底　敏、柳田　祐大、泉田　優、猪俣　昇、　　　　　　　　　藤井　達也、八木　信幸　　　　　　　　　　計7名委員ｵﾝﾗｲﾝ ：岡村　慎一、小田　政江、氏部　正、大下　貴央、　　　　　　松田　義弘、山根　大助　　　　　　　　　　計6名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計14名 |
| 議題等 | 〇知識系分野学習用動画コンテンツの追加・この事業は小田さんと松田さんに担当をお願いしようと思います。この事業の目的は専門スタッフとして身につけておくべき知識の動画コンテンツを開発し、インターネットを通じていつでもどこでも学ぶことができる体制を整備する。ということで、昨年度10個のコンテンツを作りましたが、今年度最終年度ということで、さらに３つの動画作成を企画しております。まず一つ目、情報公開の必要性を学習するコンテンツです。専門学校では募集広報に繋がるような情報公開は実施されていますが、そればかりでなく出口の状況、就職をしていった状況、その就職後のアンケート調査であるとか、その満足度学校で学んだものがどれぐらい活用されてるかというような部分で、資料ではIRというふうに表現をさせていただいておりますが、そちらも含めた、情報公開の必要性という部分を一つコンテンツとして作ってみてはどうかと考えています。作成依頼先としては、今のところ日本電子の取り組みを紹介していただこうという案です。２つ目は職業教育のマネジメントの重要性を作ります。大学は経営と教学が分離されてるので、完全に教学マネジメント、あるいは経営のマネジメントということで動いているんですが、ほとんどの専門学校は経営と教学が分離されていないと。いうところも含めて、改めてその職業教育のマネジメントについて三菱総研の藪本さんがそういった知見とデータをお持ちであるというお話もありましたので、今候補として三菱総研様に対応していきたいということで上がっております。３つめは、私立学校法の改正についてのコンテンツです。こちらにつきましては、候補としてやはり内容的に、文科省の私学行政課長の方にお願いをしてはどうかというところが上がっております。内容としては、なぜ私立学校法の改正が必要になったのか、何に期待して法改正が行われたのかといったところを理解したいと思っております。私学行政課長にOKいただけるかどうかっは難しいのではないかというお話も出ましたが、全専各連の菊田さんからのアドバイスもあり菊田さんルートでお願いした行きたいと思っています。（成底）・情報公開に関して、広報という位置づけではない情報公開っていうのは、ちょっと分かりにくいです。舟山校長のという話がありましたけどもそれはもちろん一例としてあると思うんですけど、このプロジェクトの中で、それ自体は考えないんですか。そもそも私たちにとっての情報公開とはなにかということを考える必要があるのではないでしょうか。（高岡）・飯塚さんこの件についていかがでしょうか。（成底）・いろいろな学校で情報収集等は行っているとは思いますが、自校の魅力発信や学校としての地域や社会に対する貢献などを公開している事例はあまり見受けることができないですね。また、この辺りを意識した情報収集は大学併設校の多く見られていますが、専門学校単独校が実施しているケースはあまり見受けられませんね。専門学校単独で調べてみるのであれば、調理系等が少し調査してもいいかもしれませんね。（飯塚）・岡村先生何か助言はありますか（成底）・穴吹さんや河原さんが大学併設していると思いますがいかがでしょうか（岡村）、・IRは、短大を開講した時にやっていると回答はあったが、公開までには至っていない。自己評価の項目としては入っているが、はっきりとしていない。穴吹としては離職率等について情報を収集している程度。（氏部）・河原学園は、やっているとは思うが情報共有はされていない。先ほどからお話を聞いていて重要だと思うので、この点に関しては当校としても取り入れていきたい。（大下）・松田さん、麻生塾さんではいかがですか（成底）・個別の学校としては、毎年卒業生調査を実施していると思うが、中身までは把握していない。（松田）・うちの学校も高校生に見てほしい情報の公開をしていますが、在学生や卒業生に対する情報はあまり流していませんね。卒業後の調査がどういう方法で出来て、どれぐらいのフィードバックがあるのか。また、それにお金がどれぐらいかかるのかっていうようなところが一つのネックになっているのではないかと思います。やりたいことはやりたいですけど、それを実際にやろうとすると手間暇が非常にかかるっていう部分が、一つのネックにはなっているのかなとは思います。そういう意味でも、日本電子さんが取り組みをされてるという のであれば、経緯やどういった形でされてるのかっていうことを共有していただけるっていうのは、一つの有効な情報になると思います。（成底）。・専門学校での問題は、就職を指導するのが、学校の運営組織で指導してるのではなく、個別の教員が担当してしまっていることです。卒業生が担当教員に紐づいているために、その教員が退職等することによって情報が途切れているところにありますね。（飯塚）・以前、九州大学の吉本先生がそういった卒業後の調査をされていたイメージはあったんですけど、飯塚さんがおっしゃるような現状は当校としても大きな課題だと思っています。また、どうしても学生募集に繋がらないと学校としては投資しにくいのも事実ですね。（高岡）・教育してそれで終わりではなく、その後どうなったのかもマネジメントの必つだと思いますね。当校はオープンキャンパスの申し込みをLine経由でないとできない形をとっている。その時点で全ての生徒と繋がることができているので、いろいろな情報交換が行える環境となっている。しかし、残念ながら卒業後のコミュニティ形成までには至っていません。（成底）・莫大な費用をかけないかけないとできないことではなくて、ICT技術を活用しながら安価にやっていけるといいですね。（高岡）〇職業教育マネジメントセミナーの開催・この件は、私が担当します。昨年度はオンラインで実施し、100名を超える申し込みがありました。昨年度は、小山学園さんの取り組みが先進的事例になっているということでお話をいただきました。本年度は、昨年度同様に小山学園さんにご登壇いただきお話を聞くことと、三菱総研さんが文科省委託事業を通じていろいろな情報を収集しているようですので、俯瞰的な立場から職業教育マネジメントのお話をいただきたいと思っています。また、この内容を受けて参加者同士で自校での取組みを共有するといった形を考えています。グループディスカッションが入りますので11月頃にできれば対面実施が良いと思っています。（成底）・対面でグループワークを実施することについての感染リスクはどのように考えていますか。この手の研修では事例共有については非常に重要なことだと考えていますが、、、。（高岡）・感染状況に関しては、今すぐに判断できることではないので、もう少したってから判断したいと思っています。その際はグループディスカッションのリスクも再検討してみたいと思います。（成底）・募集する時に、中止になる可能性なども案内の中に記載する必要がありますね。（高岡）・11月に対面で実施する体裁で計画を進め、1か月、2か月前に状況を判断するなどして臨機応変に対応するようしたいと思います。（成底）〇e-learningマネジメントシステムの構築・この件は、昨年度に開発した10本の動画コンテンツおよび今年度、開発を予定している、先ほど触れた三つの動画コンテンツを加えた13本の動画コンテンツのインターネット配信と受講者管理を行うためのシステム開発を行っていきたいともいます。現在、昨年度開発した動画コンテンツは、YouTubeチャンネルに視聴することができます。ただ、周りの方々には、分かりにくい場所に保存されているようにも思います。このミッションは、現在IDの学習コンテンツを学習管理システムに載せて管理をしながら研修を提供していますが、このような管理システムに私共が作成する13本のコンテンツも載せて学習管理をする体制を整備したいということです。このことで、文科省事業が終了した後でも継続して学習コンテンツを提供していきたいということです。また、受講者に対しては受講修了書等の発行も考えていければと思っています。（成底）・既にID講座を実施しているので、これに追加するといった形にしたいと思っています。また、継続するためには当会が負担して継続実施をしなければならない。この件については、受講者にも受益者から費用を頂戴して継続体制を整えようと思っています。（猪俣）・申込受付、ID発行等の事務的なことについては、業者にお願いしたいと思っています。懸念材料としては、事務を担当する方々に見ていただきたい内容ですので、継続性をどのように担保していくのかが少し気になるところです。（成底）・テスト運用はいつ頃ですか（高岡）・今年度は1月頃に無料で提供していきたいと考えています。（成底）・全専研でやったものを広く普及継続するために、財団とも連携して広く普及していく必要があると思っていますがいかがでしょう（岡村）・TCE財団としてもSDの普及に努めていきたいと思っているので、都道府県協会などには紹介していきたいと思っている。認定に関してはどのように考えているのでしょうか（藤井）・認定ではなく修了として考えています。（高岡）・認定になると何らかの試験等が必要になると考えています。財団が行っている研修と連携させることは重要だと思う。（成底）・成果物は文部科学省に帰属する。文科省としてはＴＣＥ財団が実施することでは全く問題ないと考えているのではないか。（岡村）・財団では、48時間で新任教員研修を実施し、受講修了した者に対しては教員認定を行っている。また、キャリアサポーター養成講座を21時間で行っており、レポート提出およびその審査により認定するような制度を運用している。（藤井）・先ほど岡村さんが言われましたが、この開発物は文科省に帰属するのですか（高岡）・そうです。成果報告したものに関しては、文科省に帰属します。〇申請業務効率化アプリの開発・申請業務効率化アプリということです。こちらは、職実課程の申請あるいは就学支援、新制度学則変更などの申請書類作成を対象として、業務の効率化を行えるようなアプリケーションの開発を普及するということになります。一旦項目を入力すると、申請書類の所定の位置にデータを置いてもらうといったイメージになります。（成底）・文科省には、開発の過程で相談や参加をお願いしたいですね。（八木）・文科省に意見を聞いてみれば、それいいね。ってことになるかもしれません。（岡村）・私はアウトプットについてあまりこだわりを持ってないんです。それよりも、どの項目がどのようにダブついて、無駄な労力がどのようあって事務を困らせているのかといった、上流工程の作り込みの作り込みが大事だと思っています。文科省にアプリケーションを評価してもらうというよりは、具体的なダブり項目等を明確にした設計図のようなものを提出することが重要だと思っています。（飯塚）・飯塚さんが今言われて様なことは私から文科省に伝えています。（岡村）・修学支援の制度は、大学と、専門学校で、そもそも書式が違ってたような気がしますが、、、。修学支援と職実課程に絞ってやることがいいのではないかと思いますがいかがでしょう（成底）・2つだけだと簡単に見えてしまうので、複数を対象とした方がいいと考えます。（八木）・修学支援と職実課程については、文部科学省が管轄しているの事なので、文科省に対しする助言対象の情報ができると思うし、学則変更に関しては、都道府県知事認可になるので、一定の区分があってしかるべきだと思います。（飯塚）・私も飯塚さんが言われた通りだと思います。専門士等については、横ぐしのひとつとして考えた方が良いと思います。（岡村）〇情報公開セミナーの開催・昨年度は、対面形式で実施を使用といたしましたが、コロナの関係でオンラインになってしまいました。昨年度は、岡山情報さん、ＹＩＣさん、麻生さん、穴吹学園さんの４法人に事例の紹介をしていただきました。今年度は、募集広報にとらわれないIRを含めたところで、コンテンツを一つ作りたいと思っています。日本電子の舟山校長が受けていただけるのであれば、日本電子のＩＲ事例の発表なども含めていきたいと思っています。開催に関しては、職業教育マネジメント研修とセットで行うことを考えています。（成底）・昨年は3時間で2校ということでしたので、5校の発表は少し重すぎると思います。（八木）・昨年度の事を考えると、各学校のプラスになっていなかったと思うので、本年度は辞退したいです。（高岡）・時間的な問題もありますし、去年プラスワンというのはちょっと厳しいと思いますね。（高岡）・学生募集の方法論に走ってしまうと、やっぱちょっとおかしいと思うので、その情報公開の本質みたいなところがテーマとなっていくのも一つの手だと思います。（飯塚）・日本電子にお願いすることに異論はないが、日本電子さんにお願いするっていうところは、別にそれは私も異論はないんですけど、日本電子さんは教育の中身の学生支援をした結果がどういうふうにプロセスとして、エビデンスとして情報公開していく、それを皆さんに見ていただいてということだと思います。ＫＢＣ学園と当校でやっている入学時から教育を経てどのように学生が成長したのか等を公開していくことなども発表してもいいと思う。（岡村）・いずれにしても時間がないので日本電子だけでもいいのかもしれませんね。（高岡）・先ほど岡村さんからいただいた、ＫＢＣさんとＹＩＣさんのチャレンジなども含めたらいかがでしょうか。（八木）・このトライアルに関しては、もっと広まってほしいと思うし、参加する学校が増えてくることは望ましい。（岡村）・去年と同じ内容よりも、違う方向性を出すことが良い内容になると思う。（高岡）・全専研でやっている非認知能力研修についても大学にできない成長の過程の表現だと思っています。（岡村）・日本電子については、一旦何が話せるのかを聞いてから判断した方がいいかもしれませんね。（飯塚）・去年と違ったことでやるということであれば、昨年度やった調査について無視されているような気がします。（泉田）・この件については、8月中にチームを作って内容を詰めていきたいと思います。（成底）・ＫＢＣとＹＩＣでやっているものについては、ＫＢＣと入学時の能力評価を合わせて取って、1年間経過した時点で評価をしていくというものです。できれば皆さんと共有したいです。（小田）・私が担当者することになっていますが、いろいろと課題が多いなと思っています。オンラインでの打合せをお願いします。（山根）・今日の飯塚さんからの話で、卒業生が教員に紐づいているということについて重要性を感じた。組織としてのような情報を収集して公開していけるようになることが重要だと考えています。（柳田）・今年度、はじめて参加させていただきます。なんとなく実施内容について理解は出来た。本日の議論を伺って大変勉強になりました。（大下）・11月開催で受講者は出ますかね。（泉田）・学校運営管理者が対象となるので、問題ないと考えています。（成底） |
| 配布資料 | ・事業計画書・専門スタッフ育成と情報公開の促進体制の整備事業資料 |

以上